

# 医師・看護師を増やしてください。

このままでは地域の医療が崩壊し、国民・患者の命と健康が脅かされます。

いま全国で、「医師・看護師が足りない」「産科、小児科がなくなった」「お年寄りが入院できるベッドがない」など病院や診療科の閉鎖が相つぎ、地域医療の崩壊が進行しています。



医師不足で、病院や診療科の閉鎖が相次いでいます。又過酷な長時間労働で、医師の健康破壊も深刻です。



一人の看護師が昼は10人、夜は20人もの患者さんをみています。目の回るような忙しさで、毎年1割以上が退職しています。

小児科や産科、外科、内科、救急などを  
受け入れる病院が減っています。

救急患者の  
受け入れが  
ますます  
困難



療養病床の削減で、  
行き場のない高齢者も…



住み慣れた  
まちで、  
子どもが  
産めない



## こんなに少ない日本の人員体制



出典：OECD資料から厚生労働省作成の資料

このままでは、地域医療は崩壊の危機に…

医師・看護師などを大幅に増員するための  
法改正を求める運動にご協力ください。

2008年4月から新たに  
全ての75歳以上から保険料を徴収!  
高齢者の医療負担増へ

# 『後期高齢者医療制度』

私たちは「凍結」ではなく、あくまで  
中止・撤回を求めます!

政府は2008年4月より、75歳以上を対象に新たな「後期高齢者医療制度」を実施しようとしています。

お金がない人は、  
医療が受けられない!  
こんな医療制度は許せません。

負担増  
差別医療

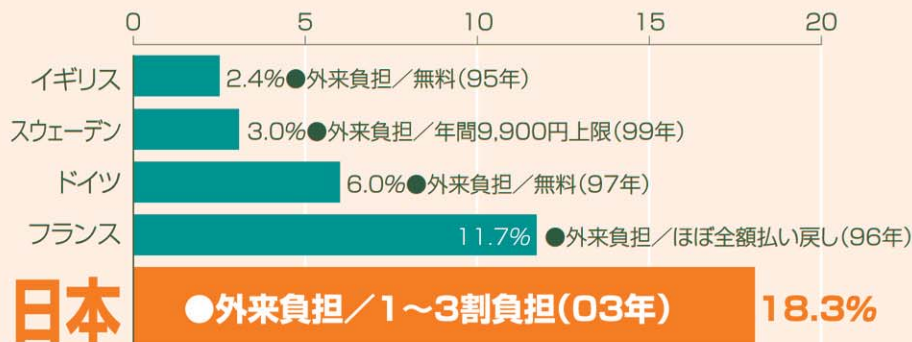


取り上げ  
保険証  
保険料  
差額負担

この制度は①これまで保険料負担のなかった扶養家族を含めて、75歳以上の全ての高齢者から保険料(初年度平均月額6200円/年額7万4400円)を徴収する、②月額1万5000円以上の年金受給者は年金から保険料を天引きする、③保険料滞納者は保険証を取り上げ、窓口で医療費全額を負担させる④75歳以上を対象にした別建ての診療報酬(医療保険から支払われる医療費)を設定し、高齢者に差別医療を強いるものです。

## 高すぎる患者負担は引き下げを

世界的に突出した日本の窓口負担 (医療費に対する患者の実効負担率)



週刊社会保障編集部編「欧米諸国の医療制度」より作成

## 政府が実施を予定する負担増

70~74歳

窓口負担が  
1割→2割に



65~74歳

国保料が  
年金から天引き



現役世代

「支援金」名目で  
保険料負担増に

